

登録販売者試験 問題集

令和 8 年版

南関東編

(東京・埼玉・千葉・神奈川)

◆厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き（令和7年4月）」対応

目次

☑ 1. 令和7年度（2025年）	問題	5
	正解&解説	53
☑ 2. 令和6年度（2024年）	問題	65
	正解&解説	109
☑ 3. 令和5年度（2023年）	問題	119
	正解&解説	164
☑ 4. 令和4年度（2022年）	問題	175
	正解&解説	216
☑ 5. 令和3年度（2021年）	問題	227
	正解&解説	271

公論出版

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 医薬品の本質に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a. 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めている。
- b. 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法（平成6年法律第85号）の対象ではない。
- c. 一般用医薬品は、市販後にも、リスク区分の見直しが行われることがある。
- d. 人体に対して使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (a、d) 4. (b、c) 5. (b、d)

問2 医薬品のリスク評価に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a. 動物実験で求められる50%致死量（LD₅₀）は、薬物の有効性の指標として用いられる。
- b. ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的にGood Clinical Practice（GCP）が制定されている。
- c. 医薬品に対しては、製造販売後の調査及び試験の実施の基準として、Good Vigilance Practice（GVP）が制定されている。
- d. 医薬品は、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合もある。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (b、c) 4. (b、d) 5. (c、d)

問3 健康食品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 健康食品は、医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることはない。
- b. 健康食品は、法的にも、安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なることを十分理解しておく必要がある。
- c. 健康食品においては、誤った使用方法や個々の体質により健康被害を生じた例は報告されていない。
- d. 一般用医薬品の販売時にも健康食品の摂取の有無について確認することは重要で、購入者等の健康に関する意識を尊重しつつも、必要があればそれらの摂取についての指導も行うべきである。

	a	b	c	d
1. 正	正	正	正	誤
2. 正	誤	誤	誤	誤
3. 誤	正	誤	誤	正
4. 誤	正	誤	誤	誤
5. 誤	誤	正	正	正

問20 薬害及び薬害の訴訟に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a. 薬害は、医薬品を十分注意して使用していれば、起こることはない。
- b. 登録販売者においても、薬害事件の歴史を十分に理解し、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止に関して、その責務の一端を担っていることを肝に銘じておく必要がある。
- c. C型肝炎訴訟を契機として、医師、薬剤師、法律家、薬害被害者などの委員により構成される医薬品等行政評価・監視委員会が設置された。
- d. 今まで国内で薬害の原因となったものは医療用医薬品のみである。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (a、d) 4. (b、c) 5. (b、d)

【人体の働きと医薬品】

問21 消化器系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 飲食物を飲み込む運動（嚥下^{えん}）が起きるときには、喉頭の入り口にある喉頭蓋が反射的に開くことにより、飲食物が喉頭や気管に流入せずに食道へと送られる。
- b. 食道から送られてきた内容物が小腸へ送り出されるまでの胃内の滞留時間は、炭水化物主体の食品の場合には比較的長く、脂質分の多い食品の場合には比較的短い。
- c. 小腸において、炭水化物とタンパク質は、消化酵素の作用によってそれぞれ単糖類、アミノ酸に分解されて吸収される。
- d. 大腸は、盲腸、虫垂、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸からなる管状の臓器で、内壁粘膜に絨毛^{じゅう}がある。

	a	b	c	d
1.	正	正	正	誤
2.	誤	誤	正	誤
3.	正	誤	誤	正
4.	誤	誤	正	正
5.	誤	正	誤	正

問22 肝臓及び胆嚢^{のう}に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 胆嚢^{のう}は、肝臓で産生された胆汁を濃縮して蓄える器官で、十二指腸に内容物が入ってくると収縮して腸管内に胆汁を送り込む。
- b. 肝臓は、脂溶性ビタミンであるビタミンA、D等を貯蔵することはできるが、水溶性ビタミンであるビタミンB6、B12等は貯蔵することができない。
- c. 胆汁に含まれるビリルビンは、赤血球中のグロブリンが分解された老廃物である。
- d. 肝臓では、必須アミノ酸以外のアミノ酸を生合成することができない。

	a	b	c	d
1.	正	正	正	誤
2.	誤	正	誤	正
3.	正	誤	誤	誤
4.	正	誤	正	正
5.	誤	正	誤	誤

〔薬事に関する法規と制度〕

問41 医薬品医療機器等法及び医薬品医療機器等法施行規則に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うこと等により、保健衛生の向上を図ることを目的としている。

b. 医師、歯科医師、薬剤師、獣医師その他の医薬関係者は、医薬品等の有効性及び安全性その他これらの適正な使用に関する知識と理解を深めるとともに、これらの使用の対象者及びこれらを購入し、又は譲り受けようとする者に対し、これらの適正な使用に関する事項に関する正確かつ適切な情報の提供に努めなければならないこととされている。

c. 薬局開設者は、その薬局において業務に従事する登録販売者に対し、厚生労働大臣に届出を行った者（研修実施機関）が行う研修を毎年度受講させなければならないこととされている。

d. 国民は、医薬品等を適正に使用するとともに、これらの有効性及び安全性に関する知識と理解を深めるよう努めなければならないこととされている。
- | | a | b | c | d |
|----|---|---|---|---|
| 1. | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2. | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3. | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4. | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5. | 正 | 正 | 正 | 誤 |

問42 登録販売者及び医薬品医療機器等法第36条の8に規定する販売従事登録に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 登録販売者とは、一般用医薬品の販売又は授与に従事しようとする者がそれに必要な資質を有することを確認するために都道府県知事が行う試験に合格した者をいう。

b. 登録販売者名簿の登録事項の一つに、試験施行地都道府県名がある。

c. 登録販売者は、住所に変更を生じたときには、30日以内に、登録を受けた都道府県知事にその旨を届け出なければならない。

d. 登録販売者が、精神の機能の障害を有する状態となり登録販売者の業務の継続が著しく困難になったときは、遅滞なく、登録を受けた都道府県知事にその旨を届け出ることとされている。
- | | a | b | c | d |
|----|---|---|---|---|
| 1. | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 2. | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3. | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4. | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5. | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |

〔主な医薬品とその作用〕

問61 かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. かぜの約8割はウイルスの感染が原因であり、それ以外に細菌の感染による場合もあるが、非感染性の要因によるものはない。
- b. 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- c. かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものではなく、咳で眠れなかつたり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る対症療法薬である。
- d. インフルエンザ（流行性感冒）は、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	a	b	c	d
1. 正	正	正	正	誤
2. 正	誤	誤	誤	正
3. 誤	正	正	正	正
4. 誤	誤	正	正	誤
5. 誤	正	誤	誤	正

問62 かぜ（感冒）の症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a. 香蘇散は、体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。
- b. 麻黄湯は、体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳が出て身体がふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされる。
- c. 葛根湯は、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされる。
- d. 小青竜湯は、体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (a、d) 4. (b、c) 5. (c、d)

〔医薬品の適正使用と安全対策〕

問101 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 添付文書に記載されている適正使用情報は、医薬品の販売等に従事する専門家が正確に理解できるよう、専門的な表現となっている。
- b. 添付文書は、必要に応じて随時改訂がなされ、重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに、改訂された箇所を明示することとされている。
- c. 添付文書に記載される薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれているような場合には、薬効名の記載は省略されることがある。
- d. 添付文書の販売名の上部に「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要に応じて読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。

	a	b	c	d
1.	誤	正	正	正
2.	誤	誤	誤	正
3.	正	誤	誤	正
4.	誤	正	誤	誤
5.	正	誤	正	誤

問102 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書等における「使用上の注意」に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a. 「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。
- b. 使用上の注意の記載における「高齢者」とは、およその目安として75歳以上を指す。
- c. 「服用前後は飲酒しないこと」等、小児では通常当てはまらない内容については、小児に使用される医薬品には記載されない。
- d. 「してはいけないこと」の項目には、その医薬品を使用（服用）するにあたり、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。

1. (a、b) 2. (a、c) 3. (a、d) 4. (b、c) 5. (c、d)

令和7年度(2025年) 午前 正解&解説

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 正解：2 (a. 正：b. 誤：c. 正：d. 誤)
b. 一般用医薬品として販売される製品は、**製造物責任法(PL法)の対象**でもある。

d. 人体に対して使用されない医薬品であっても、人の**健康に影響を与える**ものもある。例えば、殺虫剤の中には誤って人体がそれに曝されれば健康を害するおそれがあるものもある。

問2 正解：4 (a. 誤：b. 正：c. 誤：d. 正)
a. 「薬物の有効性の指標」⇒「薬物の**毒性**の指標」。
c. 「Good Vigilance Practice (GVP)」⇒「**Good Post-marketing Study Practice (GPSP)**」。
GVPは、製造販売後安全管理の基準である。

問3 正解：3 (a. 誤：b. 正：c. 誤：d. 正)
a. 医薬品との相互作用で薬物治療の**妨げになることもある**。
c. 健康食品においても、誤った使用方法や個々の体質により健康被害を生じた例も**報告されている**。

問4 正解：3 (a. 正：b. 正：c. 誤：d. 正)
c. 薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす**原因物質(アレルゲン)となり得る**。アレルゲンとなり得る添加物には、黄色4号(タートラジン)、カゼイン、亜硫酸塩(亜硫酸ナトリウム、ピロ硫酸カリウム等)がある。

問5 正解：5 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)
a. 一般用医薬品は、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な**副作用を回避**することが優先されるため、その兆候が現れたときには基本的にその**使用を中止**する。
b. 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されているわけではないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、**副作用が生じることがある**。

問6 正解：2 (a. 誤：b. 正：c. 正：d. 誤)
a. 使用量は指示どおりであっても、一般用医薬品を長期連用すると、肝臓や腎臓などの医薬品を代謝する**器官を傷めたりする可能性もある**。
d. 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがあり、一度、薬物依存が形成されると、そこから**離脱することは容易ではない**。

問7 正解：5 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)
a. 外用薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に**影響を受ける可能性がある**。
b. 相互作用には、医薬品が**吸収、分布、代謝**(体内で化学的に変化すること)、又は**排泄される過程で起こるもの**と、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

問8 正解：1
乳児、幼児、小児という場合には、おおよその目安として、乳児は生後4週以上、(a：1歳)未満、幼児は(a：1歳)以上、(b：7歳)未満、小児は(b：7歳)以上、(c：15歳)未満の年齢区分が用いられる。

問9 正解：3
3. 成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は、**副作用等が発生する危険性が高まる**ため、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用する。

問10 正解：5 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)
a. 高齢者は、持病(基礎疾患)を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって**基礎疾患の症状が悪化**したり、**治療の妨げとなる**場合があるほか、複数の医薬品が長期間にわたって使用される場合には、**副作用を生じるリスクも高い**。
b. 生理機能の衰への度合いは**個人差が大きく、年齢のみから副作用のリスク増大の程度を判断するのは難しい**。

問11 正解：5 (a. 正：b. 正：c. 正：d. 正)

問12 正解：4 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)
a. 医療機関で治療を受ける際には、**使用している一般用医薬品の情報**を医療機関の医師や薬局の薬剤師等に伝えるよう購入者等に**説明することも重要**である。
b. 医療機関での治療を特に受けていない場合であっても、**医薬品の種類や配合成分等**によっては、特定の症状がある人が使用すると**症状を悪化**させるおそれがある等、**注意が必要なものがある**。